

西藤島小だより



☆学校教育目標『自主と創意に満ちた人間性豊かな児童の育成』

☆目指す児童像「学ぶ子」「やさしい子」「強い子」

福井市三郎丸1丁目1410 TEL (0776) 22-8820 FAX (0776) 22-6809

<http://www.fukui-city.ed.jp/ni-fuji-e/> E-mail: ni-fu-e@fukui-city.ed.jp

平成29年6月30日発行

No3

福井市西藤島小学校

～実習生のお兄さん、お姉さん～

6月1日(木)から2週間、本校に福井大学から7名の教育実習生を迎えました。将来の教育を背負って立つであろう「教員の卵」が、割り当てられた教室で、担当の先生の指導や助言をもらいながら、そして教室の子どもたちとふれあいながら、2週間の実習を終えていきました。

実習生が、その日その日を振り返りながら思ったこと、気づいたこと、学んだことを書く「実習簿」を読みました。大学にいただけでは絶対に学べない、実際の子どもの出会い、授業や遊びを通して距離感が近づいていく様子、担当教諭の授業の技術を見ながら成長していく様子、実際に授業をして、改めてその難しさに気づく様子などが克明に記されており、私自身も初心に帰らせていただきました。

でも、なにより嬉しかったのは、どの学生も「西藤島小の子どもたちと出会えて、改めて教師をめざそうという気持ちが強くなりました。」と言っていたこと。この言葉が、われわれ西藤島小教職員にとって、何よりの贈り物です。そして、実習生に夢と希望を与えてくれた子どもたちにも感謝です。「子どもと接することって幸せだな～と実感しています。」という、ある日の実習生の感想が全てを物語っているようです。実習生の皆さん、2週間、大変ご苦労様でした。



楽しかったよ！ ～親子のふれあい～

6月17日(土)にPTA学級委員の皆様にご協力をいただき「親子のふれあい」を開催いたしました。日頃、保護者の皆様も、そして子どもたちも何かと忙しく、ふれあう機会もなかなか得られない中で、この日は貴重な体験や活動の日となりました。1,3,4,5年生は体育館で「ドッジボール」「大縄跳び」「手押し車リレー・しっぽとりゲーム」、2年生は「防災の話と起震車体験」、6年生は「曲玉作り」を、それぞれ親子一緒に楽しみました。



曲玉作り(6年)



起震車体験(2年)

子どもたちも普段とは違い、学校という施設の中で、お父さんやお母さんたちと一緒に活動できることを、とても楽しく、そして嬉しく思っているようで、活動中の顔も生き生きしていました。そしてまた、お父さん、お母さんたちも普段とは違うところでの子どもたちとのふれあいに、とても満足そうでした。

企画・運営に関わっていただいた学級委員の皆様、心から感謝申し上げます。

気持ちを歌にこめて♪ ～福井市連合音楽会～

6月23日(金)に福井市連合音楽会が福井市文化会館で行われました。今年の6年生が挑戦した曲は谷川俊太郎作詩、木下牧子作曲「春に」です。「この気持ちはなんだろ～♪」で始まるこの詩の中で、谷川俊太郎は、春にあたって生命が活動を始める様を表現しながら、人間の生命、人生というものとの相対を表現しているといわれています。春の生命の息吹を見て、自分、人間が為してきたこと、為したいと思っていることを狂おしく渴望しているのだそうです。6年生たちは、この詩に込められている作者の強い思いを、どのように伝えたら良いかを模索しながら、2ヶ月にわたって練習を積んできました。

そして本番の日、ステージに立った36名は、少し緊張も見られましたが、この2ヶ月間、一生懸命身につけてきた伝え方で、見事に歌いこなしていました。そのひたむきで一生懸命な表情と歌声に、思わずジーンとききました。6年生の皆さん、感動をありがとう！



フリートークコーナー ～心をこめて～



ある日の出来事です。いつもの朝と同じように、私は集団登校する子どもたちと道ばたであいさつをしていました。すると、これもいつものことですが、深谷からやってくる子どもたちが、遠くの方から、大きな、そして元気な声で「おはようございます！」とあいさつをしてきました。「今日も元気がいいなあ」と思いながらあいさつを返した、ちょうどその時、脇道を横断しようとする子どもたちの前を、1台の車が遮り、子どもたちに気づいて車を停止させました。子どもたちは、急いで小走りに車の前を横断していきます。すべての子どもたちが横断し終わったその時です。登校班長以下、おそらく20人近くいた子どもたちが、一斉にくるりと向きをかえ、停止してくれた車に向かって全員が一礼していました。車を停止させた運転手も思わず笑顔で一礼していました。素晴らしい光景でした。

今年もスクールプラン(今年度1年間でどのような力を子どもたちに身につけさせたいかの目標を掲げたもの)の一つに「明るく元気に、場に応じたあいさつができる児童を育てる」を掲げさせていただきました。生徒指導部を中心に、全職員がこの取組みに力を入れており、また保護者や地域の皆様のご協力もあり、明るく元気にあいさつできる子が少しずつ増えてきているように感じます。さらに最近、私の目を見て「おはようございます。」とあいさつしてくる子どもたちが増えてきました。しかも、そのあいさつに笑顔と軽い会釈がプラスされた時には、心の中に栄養が注入されたようで、とても嬉しくなります。



よく「物事に心をこめる」といわれます。「おはようございます」「こんにちは」のあいさつに、「相手の目を見る」「笑顔で」「軽く会釈」をプラスする。これが「あいさつ」に心をこめることになるのでしょう。心をこめたあいさつを1年間続けることで、子どもたちのコミュニケーション能力は伸びるといわれます。さらに、これを6年間続けるとなると、個人のコミュニケーション能力だけでなく、周りを明るくし、人から好感が持たれるなど、人格の形成にも大きく影響することとなるでしょう。

先ほどの深谷の子どもたちも、そして同じようなあいさつをしている他の班の子どもたちも、「あいさつ」を通して、これからも少しずつ周りを明るくできるような人格が形成されていることを心から願います。